

## H27 アクションプランシート 事業 No.4

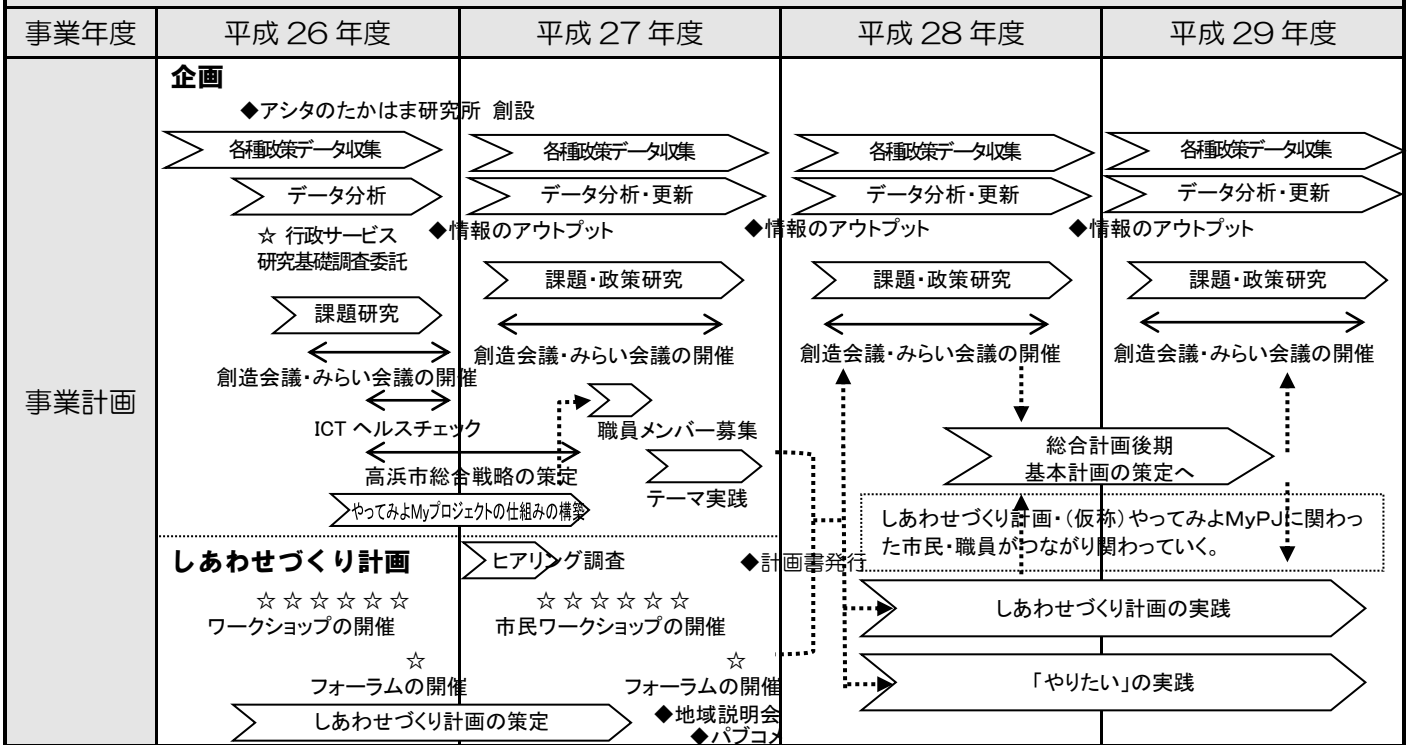
### ①事業の基礎情報

事業名	アシタのたかはま研究事業			担当部・グループ名	企画部 総合政策グループ			
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度			担当 GL 氏名	木村 忠好			
新規・継続の別	<b>継続事業</b>			電話番号(内線)	52-1111(内線 352)			
総合計画(基本計画)体系	個別目標	(1)まちへの想いを育み、未来を切り開くチカラを高めます			款	2款 総務費		
	こんなことに取り組みます	“大家族”のみんなが幸せな生活を送ることができるよう、高浜市で暮らす日常の「心地よさ」を高める取組みを進めます。			項	1項 総務管理費		
	みんなで目指すまちづくり	いつまでも高浜市に住み続けたいと思っている人の割合			目	12目 企画費		
	指標名	現状値 (H25)	79	実績値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	目標値 (H29)	85

### ②事業の概要

	何を・どうした(内容) ※箇条書きで簡潔に記載してください。	いつ
これまでの取組み	◆アシタのたかはま研究所設置要綱を制定した。	H26.8
	◆しあわせづくり計画職員ワークショップ(月 1 回)、しあわせづくりフォーラム(H27.2)を開催した。	H26.9~H27.2
	◆日本経済研究所に「行政サービス研究基礎調査業務委託」を行った。	H26.10~H27.2
	◆アシタのたかはま創造会議(2回)、みらい会議(1回)を開催した。	H26.10、H27.2
	◆ソフトバンクと共同してICTヘルスチェックを行った。	H27.1~3
これまでの取組みから 見えてきた課題 ・ 事業の必要性と 実施の背景	◇急速に進展する少子高齢化などを背景とする新たな問題の発生、厳しい財政状況等を乗り越えていくため、今、地方自治体には政策力が求められている。 ◇一方、増大する行政ニーズへの対応等様々な事情で企画部門による政策立案が困難である。 ◇その状況を打破するためには、高浜市の将来に向け、潜在する課題を明らかにし、課題解決に向けた研究を行う「政策(企画)」に特化した組織が必要である。	
目的 (何をどうするために)	★高浜市の将来を見据え、中長期的な政策課題を明らかにする。 ★課題解決に向けた研究・立案・実践を通じて、高浜市に暮らす心地よさを高める。 ★研究成果や人、想いを第6次高浜市総合計画後期基本計画の策定等につなげていく。	
対象 (誰・何を対象に)	市民	対象の数量 46,373人
最終目標  (どのような状態を目指すのか 最終的に何がどうなれば達成か)	☆研究成果を活用し、第6次高浜市総合計画後期基本計画を策定する。 ☆中長期的な課題を明らかにし、将来を見据えた戦略的市政経営が行えるようになる。 ☆市民の高浜市で暮らす日常の「心地よさ」が高まる。	
備考		

③事業の工程表



平成 27 年度のアクション（今年度は何をするのか？）※簡条書きで簡潔に記載してください。

いつまでに（期限）	何を・どうする（内容）
H27.7	◆課題について、アシタのたかはま創造会議・たかはまみらい会議で検証・検討する。
H27.9	◆高浜市人口ビジョン・総合戦略を策定する。
H28.3	◆しあわせづくり計画市民ワークショップ等を開催し、計画を策定する。
H28.3	◆やってみよMyプロジェクト職員・市民メンバーを募集し、「やりたい」の実践につなげる。
通年	◆データ収集・分析を行う。

④事業にかかる事業費概要

事業年度	平成 26 年度	平成 27 年度（当初）	平成 28 年度（見込）	平成 29 年度（見込）		
事業費総額(千円)	1,291	11,810	1,428	1,428		
財源内訳	一般財源	1,291	11,810	1,428	1,428	
	特定財源	国・県支出金	—	—	—	—
		その他	—	—	—	—
補助事業・単独事業の別	単独事業	単独事業	単独事業	単独事業		

⑤事業にかかる事業費積算基礎

平成 27 年度	・ 研究所アドバイザー謝礼 715 千円 ・ 消費品費 168 千円 ・ しあわせづくり計画策定業務委託料 9,580 千円 ・ 公共施設等会場使用料 41 千円 ・ 旅費 479 千円 ・ 印刷製本費 802 千円 ・ 各種負担金 25 千円
特記事項 (実施期間を通じて)	・ 平成 27 年度に、しあわせづくり計画の策定業務委託料として 9,580 千円を予算計上している。